特集 まちの見守り人～民生委員・児童委員～

つなぐ つながる 支え合う

「身近な相談相手」として、地域住民を見守っているのが民生委員・児童委員（以下、民生・児童委員）の皆さんです。支援を必要とする住民と、行政や専門機関との「つなぎ役」としての役割を担っています。市内では、現在、191人（主任児童委員16人含む）が無報酬のボランティアとして活動しています。

孤独死や認知症高齢者の増加、悪質商法被害防止への対応、そして、地域から孤立し、助けを求められない、困りごとが発見できないなど、住民の「社会的孤立」も大きな地域課題となっています。

自らも地域住民の一員として地域とつながりながら、生活上の心配ごと、困りごとなどの住民の声に耳を傾け、赤ちゃんから高齢者まで一人ひとりに寄り添い続ける――。今月は、地域の課題解決に欠かせない民生・児童委員の活動をご紹介します。

夫が亡くなり、落ち込むこともあるけれど、心から気遣ってくれる人がいるから笑顔になれる

地域とつながり、人と出会うと、元気をいただける

民生・児童委員になって、改めて気付いたことかな

桔梗が丘自治連合協議会と桔梗が丘地区民生委員児童委員協議会が共同で毎月発行している福祉便り「陽だまり」。活動の様子や地域の催しなどを掲載しているほか、まちの保健室から健康づくりのアドバイスも。訪問した高齢者宅で、記事が会話のきっかけにもなっているのだそう。

見守る くらしを

桔梗が丘地区 民生委員
児童委員協議会 会長
村田 憲子 さん

「友愛訪問」で見守り

「今月号の『陽だまり』です。また読んでくださいね」

民生・児童委員（桔梗が丘地区）の村田憲子さんは、自分たちで編集した福祉便りを配りながら、ひとり暮らしの高齢者宅などを訪問。世間話をしながら、変わったことや困りごとはないかを聴き取っています。

これは、「友愛訪問」という民生・児童委員の主な活動の一つ。「日頃からのお付き合いがありますので『普段と様子が違うな』という変化に気付きやすい」と村田さん。地区の民生・児童委員による毎月の定例会では、まちの保健室や社会福祉協議会の職員も同席します。

「顔なじみの職員と課題や悩みを共有することができ、事案の解決に向けて動いてくれるのですごく心強いですよね」

地域で顔の見える関係を

村田さんが、10年近く訪問している女性は、昨年仲の良かった夫を亡くし、すごく落ち込んでいたのだそう。「村田さんは、心から気遣ってくれているので、とっても救われています。気兼ねなく頼れる存在ですよね」とニコリ。趣味の仲間や近所の人も気にかけてくれていて、「一人になると寂しくなることもありますが、少しずつ癒えてきた」と話します。

村田さんは、約50世帯を担当。散歩中に声をかけたり、特に気にかけている人は時間をかけて話を聴いたり。「一人ひとりと関係性を築きながら、柔軟に対応しています」

現在の目標は、高齢者サロンを盛り上げること。「外出する機会は多い方がいいですし、何より、サロンを通じてお互いに顔が見える関係を広げてもらえれば。私自身、人との出会いで元気をもらっていますから」と笑顔をみせます。「私たちの役割は、暮らしを見守り、必要な支援に『つなぐ』こと」。そう語る村田さんは、〝自分のできる範囲で〟楽しみながら、活動を続けています。

ご近所さんなどによるバンドの生演奏で大盛り上がり。様々な出会いが生まれる高齢者サロン

頼れる味方です！民生・児童委員さん

桔梗が丘地区 まちの保健室
村上・湊

足腰が弱って閉じこもりがちになっている…など、本人からの相談が無くても、支援が必要な場合があります。民生・児童委員さんは、友愛訪問でこうした状況を聴き取り、私たちにつないでくれます。事前に要支援者が置かれている状況などを共有いただき、顔つなぎをしておいてもらえるのでスムーズに話が進むことが多いんですよ。地域全体で皆さんの暮らしを支えていくために、とっても頼れる味方です。

育ちを見守る

民生・児童委員の中でも、子どもや子育て世帯の支援を専門に担当しているのが「主任児童委員」です。

名張市では16人がそれぞれの地域で活動していて、専門機関と連携しながら、民生・児童委員をサポートする役割を担っています。

そして、赤ちゃんが生まれた全ての家庭に出向く「こんにちは赤ちゃん訪問」も実施。子育てに関する相談場所や広場・サロンの紹介、予防接種や支援制度などを説明しながら顔をつなぎ、その後の支援に結びつけています。

身近な集会所で、小さい子もゆったり過ごせる「きになるサロン」。誰もが気になってここに来たいと思える居場所を目指す。こちらのサロンも「おじゃまる広場」のボランティアが中心となって運営。最年長の原 裕子さん（左奥）は、「子どもたちに元気をもらっている」とニコリ。

くにつつじ地区 民生委員児童委員協議会　主任児童委員

北畑 維久子さん（写真左）　**草部 豊美**さん（写真右）

つつじが丘市民センターで、月２回開催される子育て広場「おじゃまる広場」。親子で遊んだり、ママ友やボランティアと情報交換したりと、親子のほっとできる居場所となっている。

広場は、主任児童委員の２人をはじめ、30人ほどのボランティアで運営。元民生・児童委員、運営スタッフに誘われた人、参加者からサポート側に加わった人などさまざま。くにつつじ地区の民生・児童委員も準備などをサポートしている。広場を核として、地域や小中学校の活動とも連携し、利用者や支援者の輪が広がり、子どもたちを見守る活動が地域の様々な場面で繰り広げられている。

「おじゃまる広場」へようこそ

「これまで、千人以上の赤ちゃんを訪問してきました」と話すのは、主任児童委員（くにつつじ地区）の草部豊美さん。訪問の際に必ず伝えているのが、〝地域でいろんな人が親子を見守っている〟ということ。

『おじゃまる広場』に来てもらえると、知り合いの輪がぐんと広がり、地域の中で声をかけたり、かけてもらったり。ママさんの買い物中、広場のボランティアが子どもを抱っこしてあげている――なんていう風景もよく見られましたね」

中には、体調を崩していても、広場でのボランティア活動を続けているうちに元気を取り戻すという人もいるそうで、ボランティア最年長の原裕子さんは、「広場以外でも、『おじゃまるのおばちゃんや～』と声をかけてくれるんですよ」とうれしそう。「支援する・される」の垣根を超えた活動になっています。

人のつながりの中で

草部さんは30年ほど前、知人が誰一人いない名張に転居。子育てサークルでつながりができ、子育てを楽しむようになったという経験の持ち主です。

「名張の魅力は人のつながり。私の娘は大きくなり都市部で暮らしていますが、『あちこちで知り合いに声をかけてもらえる空気感がよかったな』って。主任児童委員として大切にしているのは、親子にそんなつながりを実感してもらうことです」

子どもと関わる様々な活動に顔を出してつながりを作っている草部さん。地縁のつながりが苦手な人には、子育てサークルを紹介することもあります。

「まさに、私はつなぎ役。初めは自分で『あれもこれも』と頑張ってきたけれど、地域の人のつながりの中で子育てを支えていけるといいですよね」

一方で、次の世代に支援のバトンをつないでいくことが課題となっています。「私が委員になった頃に訪問した赤ちゃんも、今年、中学校を卒業しました。子どもの成長を見守っていけるのが、活動の大きなやりがい。今後も続けていきたいと考えていますが、地域のつながりを持続していけるよう、これからは後進を応援していきたい」と笑顔で語ってくれました。

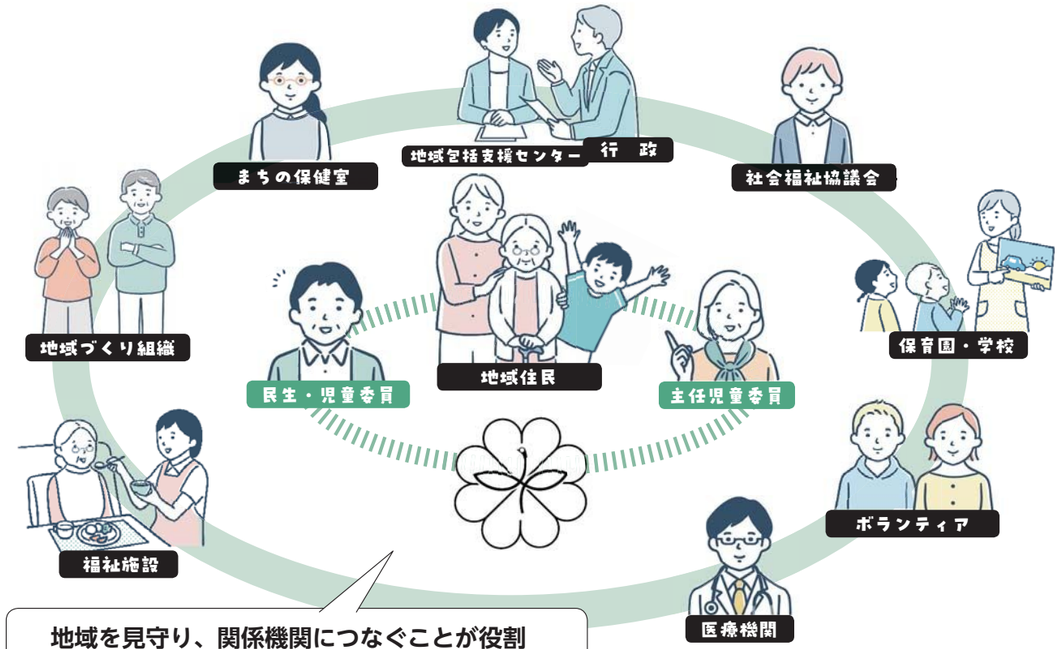
結婚してから、つつじが丘に移り住んできました。知り合いもいなくて不安でしたが、「こんにちは赤ちゃん訪問」で草部さんと出会い、「おじゃまる広場」を紹介してもらいました。同世代の子どもがいるママたちとも仲良くなれましたし、これまで子育てに対して深刻に悩んだことはなかったかな。

ボランティアさんやママ友など、地域の中に顔なじみがいれば、なんだか見守られている感じがして、すごく心強いですね。

地域に見守られてすごく心強いです

宮﨑 扶貴子さん、**碧士**（あおと）くん

地域を見守る仲間とともに、民生・児童委員の活動があります



地域を見守り、関係機関につなぐことが役割

民生・児童委員は、地域住民の困りごとを直接解決するのではなく、行政やまちの保健室、社会福祉協議会などに情報をつなぐ「パイプ役」として活動しています。日頃から地域の人たちとのつながりを持つため、多くの委員が、高齢者サロンや子ども食堂、認知症カフェなどの地域活動に参加・協力しています。

みんなで支え合う

名張市民生委員児童委員協議会連合会
会長 狩野（かのう） 明義さん

民生・児童委員の任期は、1期3年と定められていて、今年12月に任期満了に伴う改選が行われます。地域の推薦を受けた後、県での審査会を経て、厚生労働大臣から委嘱されることになります。

団塊世代が75歳以上となり、地域の担い手不足が深刻化していく中、地域福祉の土台を支える民生・児童委員もまた、担い手の確保が大きな課題となっています。

そうした中、地域社会に多様なつながりを生み、互いに支え合える仕組みが求められています。

担い手不足にどう対応するか

「見守りが必要な高齢者が増えている一方で、定年後も仕事をする人も増えていて、民生・児童委員の担い手の確保が難しくなってきています」と話すのは、名張市民生委員児童委員協議会連合会の会長を務める狩野明義さん。「公募や居住地外への応援を可能にするなど、担い手確保に向けて柔軟に対応していく必要がある」と指摘します。

現在のところ、名張市は民生・児童委員の定員充足率は100％となっています。「市民のお互いに助け合おうという意識に加え、まちの保健室を中心に、私たちの活動をしっかりとバックアップしてくれて活動しやすいのも、この充足率につながっているのでは」と狩野さん。市から受託している高齢者実態調査の実施手法を市とともに見直すなど、負担軽減にも努めています。

人との出会いがやりがいに

民生・児童委員になって、2期目を務める人は半数ほどに留まります。現在6期目を務める狩野さんは、「相手との関係性を構築しきれない1期目の頃は、私も大変で負担感が大きかったのも確かです」と、これまでの経験を振り返ります。

「訪問時に無口だった高齢の男性がいました。私が2期目の頃には、男性から話しかけてくれるように。最終的に10年近く付き合った人ですが、幼少期からの生い立ちを何度も聴かせてもらいました。もう覚えてしまうぐらい…。亡くなる3カ月前、いつもの昔話を一通り話し終えた後、『毎回毎回、同じ話を聴いてくれてありがとう』とポツリ。ジーンと私の心を打ちましたね。2期、3期と続けているうちに、相手の気持ちに寄り添えるようになっていくのだと思います」

そんな狩野さんに、20年近くも民生・児童委員を続けている理由を伺うと「見守りをしている人との関係を深めていけることはもちろん、民生・児童委員同士が仲間として、切磋琢磨できるのがいい。人との出会いがやりがいにつながり、自分の生き方を見つめなおすきっかけにもなりました。続けてきて本当によかったと思いますよ」。そう力強く語ってくれました。

民生・児童委員　Q & A

Q どんなことを相談できる？

生活上の「心配事・困りごと」をお聴きします

高齢者
- 家族の介護のことで悩んでいる
- ひとり暮らしで心細い

子ども
- 子どものいじめや不登校が心配
- 子育てに役立つ情報を知りたい

生活全般
- 悪質商法かもしれないと不安
- 経済的に生活が苦しく困っている

Q 秘密がもれないか心配…

守秘義務があり、秘密は守られます

民生・児童委員は、特別職の公務員として活動上知り得た情報について、守秘義務が課されています。この守秘義務は、委員退任後も引き続き課されます。

あなたの地域の民生・児童委員など詳しくは、医療福祉総務室（☎63 - 7579）へお問い合わせください

互いに支え合える仕組みを築きたい

医療福祉総務室 室長　金森

地域共生のまちを築いていくために、民生・児童委員はなくてはならない存在です。ただし、民生・児童委員の皆さんに大きな負担をお願いするということではなく、地域社会に多様なつながりが生まれるような環境を整え、互いに支え合える仕組みを築いていこうとしています。

不登校やひきこもりなど生きづらさを抱える人の背景は千差万別。それだけに、多様な人のつながりが必要とされています。市民一人ひとり（企業や関係団体なども含む）が、自分たちの強みを生かし、できる範囲の中で地域の活動に参加していただく。そして、やりがいを持って楽しみながら、つながることができる場があるといいですよね。